

第 63 回自然災害科学総合シンポジウムを開催しました（2026/9/26）

テーマ：自然災害研究協議会、災害科学

会場：災害科学国際研究所・多目的ホール（現地および Zoom によるハイブリッド開催）

2026 年 9 月 26 日、京都大学防災研究所 自然災害研究協議会が主催し、災害科学国際研究所と日本自然災害学会が共催する「第 63 回 自然災害科学総合シンポジウム」が、災害科学国際研究所の多目的ホールで開催されました。

この協議会は、自然災害とその軽減のための研究に関し、研究計画の協議や研究情報の交換を通じて各研究機関間の連携を緊密にし、もってその有効な推進を図ることを目的に設立され、今年度は日野亮太教授（海域地震学研究分野）と佐藤健教授（防災教育実践学分野）、それに蝦名裕一准教授（災害文化アーカイブ研究分野）が委員を務めています。

シンポジウムでは、京都大学防災研究所の渦岡良介所長が開催趣旨や協議会の概要などを説明した後、科研費特別研究促進費（突発災害）報告、自然災害研究協議会による突発災害調査研究報告、防災研究所共同研究・地域防災実践型共同研究報告が行われました。

※発表プログラム

- ・「2025 年大船渡市山林火災の総合調査研究」
桑名 一徳（東京理科大学創域理工学研究科）
- ・「トカラ列島近海において継続する地震活動に関する総合調査」
八木原 寛（鹿児島大学理工学域理理学系）
- ・「Comparative Post-Flood Field Assessment of Extreme Flood Events in the Vu Gia - Thu Bon River Basin, Vietnam, and the Cagayan River Basin, Philippines」
KANTOUSH Sameh Ahmed（京都大学防災研究所）
- ・「2025 年青森県東方沖の地震で発生した地震動と建物被害の対応」
中澤 駿佑（宇都宮大学地域デザイン科学部）
- ・【特別講演】「自然災害研究協議会と日本自然災害学会の連携を目指して」
日本自然災害学会会長 牛山 素行（静岡大学防災総合センター）
- ・「防災 DX 時代における行政の意思決定を支援するための新たな情報可視化アプローチの開発と実践」
齊藤 正人（埼玉大学社会変革研究センター）
- ・「山陰地方の地震帯の応力場と 2026 年島根県東部の地震」
飯尾 能久（阿武山地震・防災サイエンスミュージアム）
- ・「2026 年 1 月の長期寒波による日本海側を中心とした広域雪氷災害に関する調査研究」
杉浦 幸之助（富山大学都市デザイン学部）

シンポジウムには、現地とオンライン合わせて 400 人近くの研究者が参加しました。国内外で大規模な自然災害が相次ぐ中、研究成果を今後の防災にどう生かすかを熟考しながら、熱心に耳を傾けていました。

文責：佐藤 正則（広報室）
（次頁へつづく）



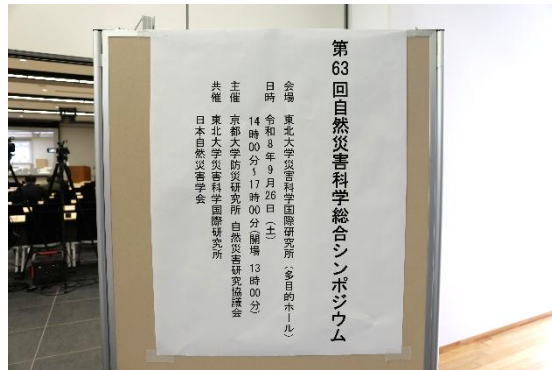
挨拶を述べる渦岡所長
(京都大学防災研究所)



発表する桑名教授（東京理科大学）



会場の様子



会場の様子